

## 背景・目的

岡山県倉敷市茶屋町は約400年前まで海であり、近世に入り徐々に干拓が行われ、陸地化した地域である。干拓後は、茶屋や宿舎などのサービス業が立ち並ぶ町となった。このことから茶屋町という名前になったともいわれている。さらに、干拓地に移りこんだ人々により、周辺地域の鬼の文化や風習が当地に持ち込まれた。現在では神社や地域の秋祭りに「茶屋町の鬼」が登場し、地域全体を盛り上げている様子がまちの風物詩となっている。

一方、現代の茶屋町は干拓により広がっていた田畑も、その多くは埋め立てられ、住宅やマンションに置き換わりつつある。また、岡山と倉敷の市街地から程よい距離に位置しているため、人口は増加傾向だが、岡山や倉敷に通勤通学する人々のベッドタウンとなっている。現在、住宅街が広がる茶屋町には地域内外の人々が集い賑わう姿が地域の祭り以外では見られない。賑わいには鬼だけでなく、「茶屋」空間そのものの再提案が必要であるのではないかと考える。

これらを踏まえ、本計画は茶屋の要素である「地域内外の人が集う場所」に着目し、かつての茶屋町のように地域内外の人々が集い賑わう交流施設を提案することを目的とする。



## 計画敷地

計画敷地は岡山県倉敷市茶屋町に位置する赤色の三角形の敷地である。  
 〈敷地周辺情報〉  
 北側：茶屋町小学校、茶屋町公民館  
 西側：東陽中学校・茶屋町支所・商業施設（スーパー、ホームセンター）〔青色〕  
 敷地周辺には住宅街やマンションが広がっており、JR茶屋町駅があることから地域内外の人々がアクセスしやすいのが特徴である。

## 敷地調査

- 茶屋町公民館にて公民館職員へ聞き取り調査を実施（2024.05.05）  
 〈話を聞く中での気づき〉
- ・人口が増えつつあるなかで地域の人々が利用できる図書館を設けるべき
- ・夜でも周りを気にせず集まって太鼓の練習を思い切りできる場所を設けるべき
- ・地域の吹奏楽のホールが狭いため、十分な演奏場所を設けるべき

- 茶屋町駅前広場にて開催の鬼まつりへ参加（2024.11.17）  
 年に一度の祭りということで身動きが取れないほど多くの人々が参加し、地域の人々の屋台の出店や鬼太鼓の演奏など活気のある祭りであった。

- 〈参加してみたの気づき〉
- ・会場周辺に調理室がないため、屋台を出す人は公民館の調理室を使用し、会場と公民館を往復する手間が増加。
- ・人混みが駅のロータリーまで広がり、車や駅を利用する人の妨げとなっていたため、より規模の大きい広場をつくる必要がある。

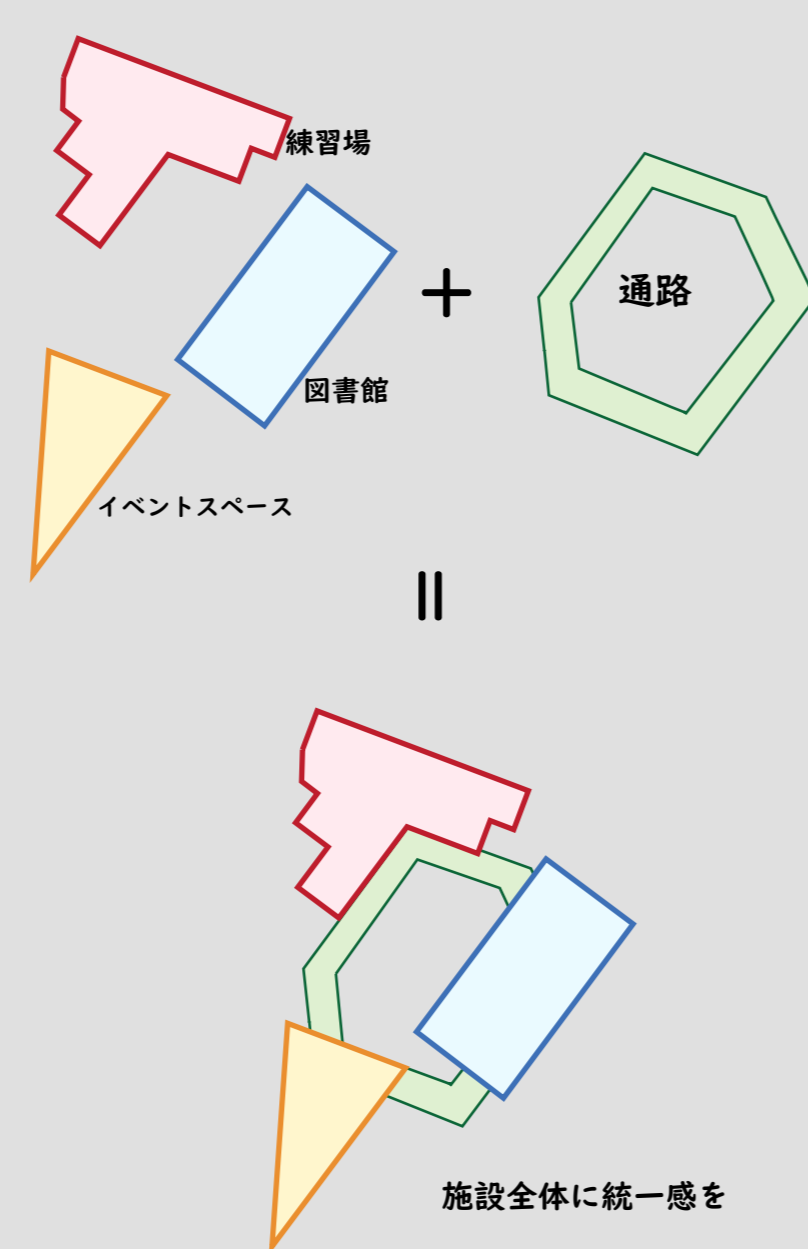


祭りの様子（2024.11.17 筆者撮影）

人が広がっている様子（2024.11.17 筆者撮影）

## 計画方針

これまでの聞き取り調査・敷地調査なども踏まえて、  
 ①練習場、②図書館、③イベントスペースの3つの施設を計画する。  
 異なる用途を持つ施設を計画するが、各施設を通路でつなぐことにより施設全体に統一感を持たせる。それにより、敷地全体の空間そのものが1つの大きな交流施設として成立するようにする。また、通路を駅や住宅街の方向へ伸ばし、複数の入り口を設けることで、どの方向からでも各施設へ訪れやすいようにする。



施設全体に統一感を

異なる用途の施設を通路でつなぐイメージ図

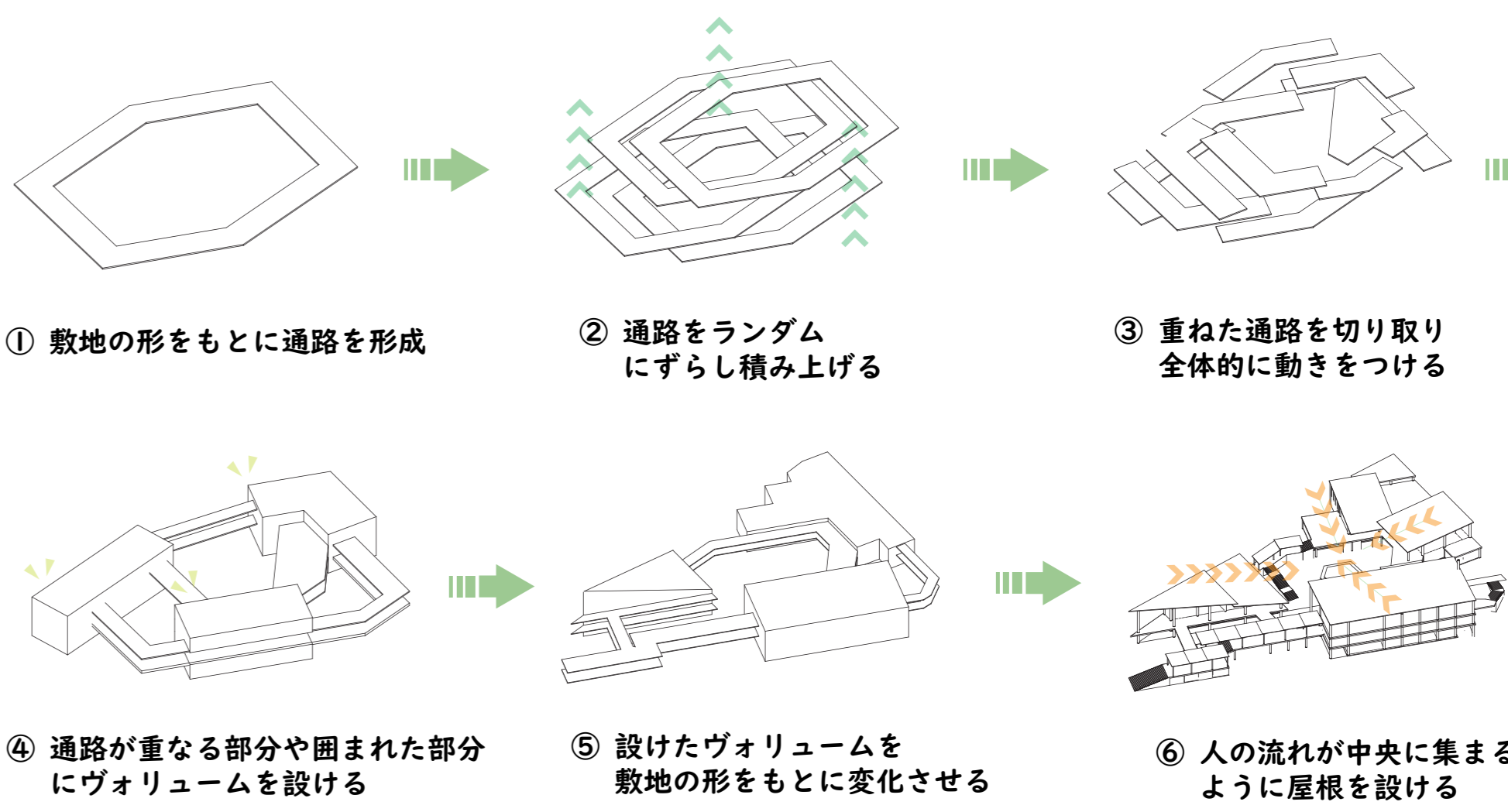


ゾーニング計画

## 建築・空間の作り方

施設の空間構成は通路を中心に考える。施設や通路を通して人々の交流を促すための空間構成を行う。

- ①敷地の形をもとに通路を形成
- ②通路をランダムにずらし積み上げる
- ③重ねた通路を切り取り、全体的に動きをつける
- ④通路の重なる部分や囲まれた部分にヴォリュームを設ける
- ⑤設けたヴォリュームを敷地の形をもとに形を変化させる
- ⑥人の流れが中央に集まるように屋根を設ける



通路による空間構成のダイアグラム

# 練習場

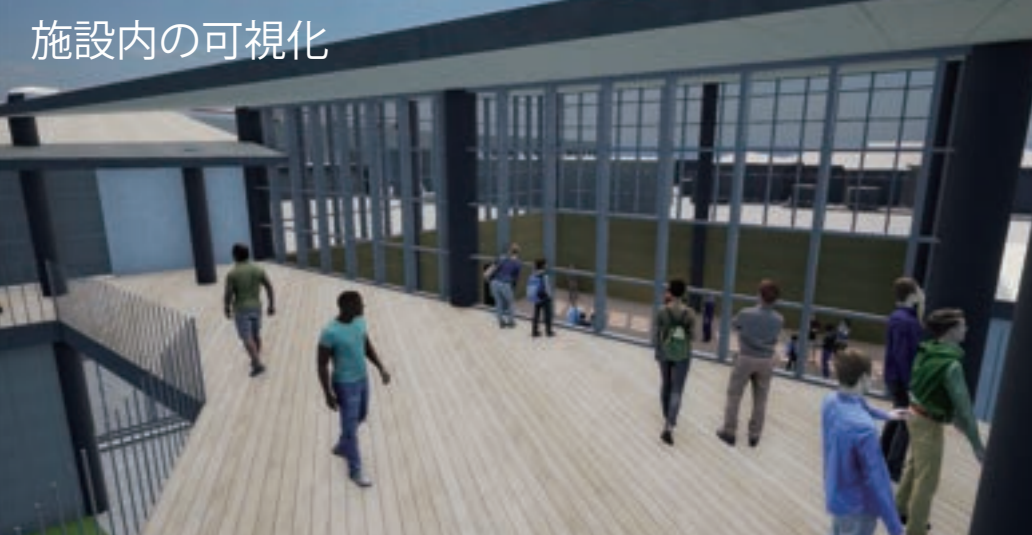
地域の吹奏楽(倉敷グリーンハーモニー)の練習場、茶屋町の鬼が演奏する太鼓の練習場として2階建ての施設

練習がない場合は、地域の人々に開かれた体育館や集会場のような役割としても機能する多目的施設として計画  
1階は、規模の異なる3つの練習場、スポーツ用品や日用品を販売する売店を設置  
2階をガラス張りすることで外から中の様子を見渡すことができる。  
2階から活動をしている風景をイベントの準備期間からも視覚的に楽しめるような場所とする。

# 図書館

3階建ての図書館として計画  
施設全体の大きな特徴としては、施設西側に大きな吹き抜けや中央広場側をガラス張りすることで、開放感のある空間で学習を深めることのできる場所とする

1階は一般書架を設け、ゆっくり読書や勉強ができる場所として計画  
2階は、外の通路から通り抜けができることを活かし、図書館利用者以外の人でも気軽に立ち寄ることができる場所とする。茶屋町で栽培されたお米を使用したおむすびカフェや児童書架を設ける。他にも定期的に読み聞かせや子供向けの工作教室などのイベントを開催するキッズコーナーを設ける  
3階は、2階とは対照的に集中して学ぶことのできる場所として計画を行う。一人で集中するエリアや友達同士で会話をしながら知識を深めるエリアを設ける



# イベントスペース

2階建ての三角形の施設として計画  
この施設は、地域内外の人が何か物事を始めるきっかけとなる拠点として計画  
屋根の形を鋭角に伸ばし、2階部分の天井を高く設けることで開放感のある空間を形成

1階は、地域の掲示板や地域の作品展示室を設ける。地域の情報共有の場所として活用し、地域の学生が気軽に自分を表現できる場所として計画を行う。  
2階は、ワークショップやものづくりもできるイベントスペースや料理教室を行うことのできる調理室を設ける。  
また、鬼まつりの際はイベントスペースを演者の待機室、調理室を屋台の調理場として活用する。

# 通路

敷地内の通路はただの通路ではなく、通路を交流施設の1つの要素として考える。この敷地に異なる目的を持った利用者が集まり、この通路を人々が行き交う中で新たな交流が始まる場所として計画する。また、通路が敷地内をめぐること用途の異なる3つの施設に一体感が生まれる。

また、鬼まつりの際には観客席の役割を担うことで参加者があふれることを防ぎ、参加者全員が安全にパフォーマンスを観覧できる場所とする。  
そして、この通路は小さなステーションとしても活用することで、通路によって地域が賑わう姿を表現するようになる。

